

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年4月17日

事業所名 放課後等デイサービス 和順

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	6名	1名		定員数以上の広さを 確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	3名	3名	1名	加配加算を取得。	送迎時に常時職員2名体制が望まれる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	5名	2名		バリアフリー化されて いる。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	5名	3名		会議に確認。	今後も会議等で職位難へ広く周知していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	6名	1名		平成30年度より実施。	今後も業務改善に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	6名	1名		HPで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	5名	1名	1名	受けていない。	今後、検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	7名			WEB研修受講。	県外研修も取り組んでいく予定。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	7名				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	3名	3名	1名		
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	6名	1名		担当者が会議で立 案。	今後も児童らの意見を反映したプログラムをチームで 立案していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	4名	3名		こども会を通して児童 の意見を反映。	今後も継続していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	4名	2名	1名		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	7名				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	4名	3名			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	5名	2名		申し送りや連絡帳を 活用している。	今後も継続して情報共有を図る。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	5名	2名		日々実施している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	7名			定期的に行い、会議 で検討している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	5名	2名		複数の組み合わせで 行っている。	今後も会議等で職員へ広く周知していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	7名			児発管が参画。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	5名	2名		送迎時に確認してい る。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	2名	3名	2名	該当する児童がいな い。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	4名	1名	2名	関係者会議開催。	今後も受け入れ時に関係者会議を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	6名	1名		必要に応じて実施。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	2名	3名	2名	ペアトレ研修の受講。	今後も継続して受講する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	1名	3名	3名	コロナ禍により実施で きていない。	コロナの影響で活動が制限されていた。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	2名	2名	3名	管理者が参加。	今後も必要に応じて参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	7名			連絡帳、送迎時に報 告。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	2名	1名	4名	ペアトレ研修の受講。	今後も職員の資質向上のため研修等の受講は必須。
保護者への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	5名	2名		契約時におこなう。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行ってい る	5名	2名		必要に応じ行う。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	2名	4名	1名	コロナ禍により実施で きていない。	今後、コロナの状況をみながら開催予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	4名	3名		関係機関と連携して 速やかに対処してい る。	苦情解決委員会の活用。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	5名	2名		毎月、園だより当を発 行している。	
	35	個人情報に十分注意している	7名			入職時に説明してい る。	退職後の個人情報の取り扱いについても規定に記載 されている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	6名	1名			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	1名	3名	3名	盆踊り、運動会等	今後、コロナの状況をみながら開催予定。

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4名	3名		策定されている。	今後も会議で職員へ周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名			毎月、防災訓練を実施。	消防、防災設備会社の立ち合いも継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名			全職員を対象に研修を実施。	平成31年度より、全職員を対象に研修を実施、継続していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7名			対象児童がいない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2名	3名	2名	対象児童がいない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5名	1名	1名	連絡帳に記載。	今後、法人全体で情報共有を円滑にするため書式等を合わせていく方針。